



## CONTENTS

### 共同行動からのお知らせ

- 医療安全全国フォーラムの事前参加登録を締め切りました
- インターネットで全国中継しますー公開シンポジウム
- 医療安全全国共同行動にご参加ください
- 参加登録病院へー基礎データに関する現状評価と成果報告の入力をお願いいたします
- 日本看護協会主催の医療安全推進週間 企画展、開催中

### 病院の活動紹介

- 国立循環器病研究センターの活動

### フォーラム・セミナー等のご案内

#### ひとことアドバイス

- 危険手技の安全な実施ー中心静脈カテーテル(目標3b)

### フォーラム・セミナー等のご報告

- 平成22年度医療安全管理シンポジウム(西部地区)が開催されました

### 応援コンサートのご報告

- 諏訪中央病院(長野県)で応援コンサートが開催されました

### ● 成功事例・参考事例を募集しています

→ <http://kyodokodo.jp/> トピックス内

### ● 質問・提案をお寄せください→ [advice@ppscamp.net](mailto:advice@ppscamp.net)

### ● 標準化病院死亡比(HSMR)を算出してお知らせします

→ <http://kyodokodo.jp/hsmr.html>

お問い合わせは [toHSMR@ppscamp.net](mailto:toHSMR@ppscamp.net)

### ● 参加登録病院用のバナーができました!

→ [パートナーズ専用ページ/トップページ](#)

### ● 参加登録方法に関するQ&A→ <http://kyodokodo.jp/faq.html>

参加登録事項変更等に関するQ&A

→ [パートナーズ専用ページ/Q&A](#)

### ● キャンペーンポスターをご利用ください

完成版→ [http://kyodokodo.jp/shiryuu\\_koho.html](http://kyodokodo.jp/shiryuu_koho.html)

基本デザイン→ [パートナーズ専用ページ/メニュー](#)

## 共同行動からのお知らせ

### 医療安全全国フォーラム(11月26、27日)の事前参加登録を締め切りました

● 76題の発表と500名を超える参加申し込みをいただきました。ありがとうございました。

事前予約が間に合わなかった方は、会場(幕張メッセ国際会議場)1階の「当日参加受付」にてお手続きください(事前にお申し込みいただいた方々には参加票をお送りします)。

● セミナーセッションは、A、C、Dが満席となりましたが、B、Eはまだ少し残席がありますので、当日先着順で受け付けます。26日10時から受け付けていますので、お早めにお越しください。

#### ● 当日参加可(残席少々)

B「安全な手術ーWHO指針の実践」

E「人工呼吸器下ケアの安全管理(VAPを含む)」

#### ● 受け付け終了

A「事例分析の基本について」

C「急変時の迅速対応」(有害事象の早期発見と緊急対応)

D「医療安全への患者参加ー転倒転落防止と肺塞栓予防」

● 目標別セッション(ポスター発表と討議)は、ポスター展示(2階ホール)の前で行います。目標によって偏りが予想されますので、比較的空いているセッションに適宜分散してご参加いただきますようお願いいたします。

● 全国フォーラムのホームページ <http://forum2010.ppsqsh.net/>

● お問い合わせ先 [forum2010@ppsqs.net](mailto:forum2010@ppsqs.net)

## インターネットで全国中継します 公開シンポジウム▶11月27日(土)9:00～11:45

当日、ライブ中継を下記URLよりご覧になれます。当日会場までお越しいただけない方はぜひインターネット中継でご参加ください。

◆ユー 스트リーム <http://www.ustream.tv/channel/kyodokodo>

◆ニコニコ動画 <http://ch.nicovideo.jp/channel/ch500>

現在、ニコニコ動画で以下の映像がご覧になれます。

■特別講演 「欧州におけるPatient Safety(患者安全)の取組み」ギンター・ヨーニッツ氏(ベルリン医師自治機構会長/ドイツ連邦医師会質保証委員長)～全国フォーラム(第3回 2009/11/23)より

■特別講演 「英国における改善の指標」ブライアン・ジャーマン卿(ロンドン大学名誉教授・前英国医師会長)～全国フォーラム(第2回 2009/5/30)より

\*講演のスライドは <http://partners.kyodokodo.jp/info/report/2009/z090530forum.html> よりご覧ください。

■「海外から日本の医療安全全国共同行動へのメッセージ」

## 医療安全全国共同行動にご参加ください

10月28日に共同行動推進会議企画ワーキンググループ会議が開催され、次年度共同行動の提案の基本案が決まりました。期間を1月から1年間とし、8目標のうちまだ徹底できていない目標の実現をめざすとともに、新たに「安全な手術-WHO指針の実践」の推進を提案いたします。また、中小規模病院、診療所の取り組みの発展を期待します。

提案の詳細はフォーラムで公表されます。ぜひ多数の病院、診療所に共同行動にご参加いただきませうようお願いいたします。

## 参加登録病院へー基礎データに関する現状評価と成果報告の入力をお願いいたします

→基礎データの再入力：施設概要/入院死亡数/安全対策等実施度の現状

→登録した行動目標に関する取り組み内容とこれまでの成果の要旨(目標別)

ご多用のところ恐縮ですが、なにとぞよろしくお願い申し上げます。

貴院の<マイページ>への入り方が分からない方は、下記までお問い合わせください。

●共同行動支援事務局 [shienjimu@kyodokodo.jp](mailto:shienjimu@kyodokodo.jp) (電話. 022-717-8196)

## 日本看護協会主催の医療安全推進週間 企画展、開催中

11月1日(月)～30日(火)、日本看護協会JNAプラザにて、日本看護協会による医療安全推進週間企画展が開催されています。入場無料、どなたでも入場できます。ぜひお出かけください。

展示内容：患者図書室、医療看護支援ピクトグラム、医療ミスを防ぐ20か条、DVD放映など。会場でクイズに答えると、看護の日グッズのプレゼントあり。

\*詳細は <http://www.nurse.or.jp/> からご覧ください。

## 病院の活動紹介

### 国立循環器病研究センターの活動

## 院内は安全ですか？ — 急変事例の全例報告の取り組み —

国立循環器病研究センター  
心臓血管内科部門長 野々木 宏

### 院内急変例の全例登録システムの構築と多施設共同登録について

院内での急変とくに心停止は、時間が遅れると救命が困難になることがまれではありません。院内重症チーム(EMT、RRT、迅速対応チーム)をつくり病院全体への取り組みが共同行動でも提案されています。その必要性やどのような症例に事前に注意をすればよいか、現状の把握がなされていません。そのようなシステムの有効性を検証したり、対策を立てるためには病院全体での心肺蘇生を必要とした事例の全症例を把握することが重要です。

私たちは、院内の医療安全対策室と共同で全例把握するシステムを構築しました。また、この登録フォーマットは、国際的な院内ウツタイン登録に準じており、現在米国で実施されているNRCPR(米国病院内心肺蘇生登録)とも対比が可能なものです。

現在、全国11施設において2年間の登録(JRCPR)を行い、院内心停止例の実態と対策を内外へ発信しています。本年11月には、その成果を米国心臓病学会(AHA)で報告します。

院内での実態調査で判明した事例の紹介と実践した対策をお示します。

心停止が病棟や外来ではなく、医療スタッフがいない食堂や地下で生じて、非医療従事者のみしかいなく、医療器材もない状況が判明しました。

そこで、医師、看護師のみではなく、病院の全従業員(食堂や清掃員、事務職を含む)1000名近くにAEDと基本的CPRの方法を1名ずつに配布する簡易マネキンキットを用いてトレーニングを実施しました。また、全フロアにAEDを設置して、医療器材がない食堂階には、AED-Box内にバッグバルブマスクの設置も行い、集中治療室への直通電話を設置し、救急カート到着までの処置が可能となるようにしました。

このシステムを全国共同行動を実施されている全病院へ提案致します。さらにこの登録データをパートナーズで共有し、対策につながり、米国と共同で対策立案につながることを期待しています。

\* 病院の活動紹介は、[公開ページ/トップページ/メニュー](#) → [「パートナーズの活動」](#) → [「病院の活動紹介」](#) からご覧ください(各地のフォーラム・セミナー等で発表された事例の一部もご覧いただけます)。

## フォーラム・セミナー等のご案内

### 全国フォーラム

#### 医療安全全国共同行動 全国フォーラム

日程：11月26日(金)・27日(土)

会場：幕張メッセ国際会議場

<http://www.m-messe.co.jp/access/index.html>

\*詳細は <http://forum2010.ppsqsh.net/>

### 地域フォーラム

#### 静岡県「平成22年度医療安全管理シンポジウム」

テーマ：行動目標8 患者・市民の医療参加

## 〈中部地区〉

日時：11月8日(月) 18:00～20:00

会場：静岡県産業経済会館 3階 大会議室

\*詳細は <http://kyodokodo.jp/doc/event/101108.pdf>

## 〈東部地区〉

日時：11月16日(火) 18:00～20:00

会場：サンフロント 9階 ミーティングホール(沼津市)

\*詳細は <http://kyodokodo.jp/doc/event/101116.pdf>

主催 社団法人静岡県病院協会

## 8目標に関連するフォーラム、セミナー、シンポジウム、講習会

**NEW!** 医療安全推進週間 企画展(すべての目標に関連)

日時：11月1日(月)～30日(火) 10:30～17:00(平日のみ、土日祝日休み)

会場：日本看護協会 JNAプラザ(〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-8-2 日本看護協会ビル3階)

主催：(社)日本看護協会

\*詳細は <http://www.nurse.or.jp/> からご覧ください。

## 弾性ストッキング・コンダクター講習会(目標2に関連)

## 〈大阪地区〉

日時：2011年3月12日(土) 12:30～17:00

会場：葉業年金会館 会議室301号、401号、402号

主催：日本静脈学会弾性ストッキング養成委員会

\*各講習会の詳細は <http://www.js-phlebology.org/japanese/sscc/index.html>

## 第6回医療安全大会—チームでとりくむエラー対策(すべての目標に関連)

日時：11月6日(土) 9:30～15:30

会場：青葉の森公園芸術文化ホール

主催：(社)千葉県看護協会

\*詳細は <http://www.cna.or.jp/> からご覧ください。

## 第5回医療の質・安全学会学術集会(すべての目標に関連)

会期：11月27日(土)～11月28日(日)

会場：幕張メッセ国際会議場 <http://www.m-messe.co.jp/access/index.html>\*詳細は <http://www2.convention.co.jp/jsqsh05/>

## ひとことアドバイス

## 危険手技の安全な実施—中心静脈カテーテル(目標3b)

## 人を育てる研修会でCVCの安全確保



倉敷中央病院 安全管理室担当  
GRM 米井 昭智

CVCは様々な用途で多用される重要手技の一つである。一方でCVCに関して多くの合併症が知られており、症状は軽微なものから死亡に至ったものまである。

倉敷中央病院はインストラクター制を中心にした管理体制を敷いて、若手医師はインストラクターの指導のもとでCVCを行う。また穿刺後に穿刺部位、呼吸音などを定期的にチェックする手順を作成し、もし合併症が起きて早期に発見できるようにした。エコーガイド下穿刺の教材用ビデオを作成して各部署に配布した。当院にインストラクター制などの管理体制を導入してからCVCによる重大事故はなくなったが、残念ながら合併症は依然として散発している。



事故を起こりにくくするには、行わなければ事故は起こらないのでCVCの適応を厳密にする、事故の起こりにくいPICCを導入する、CVセンターを作り穿刺する場所を限定する、認定制度を作ってCVCを実施する医師の力量を担保する、チェックリストを作成し穿刺前後の患者管理を高める、CVCの件数・穿刺回数・穿刺部位などの統計を把握する、エコーガイド穿刺を導入する、などが考えられる。

注意すべきは、1. 様々な手順の順守率を上げることに資源を投入すること、2. 指導体制が明確でないエコーガイド下穿刺はそれ自体が危険であり、若手医師を指導する体制が重要であること、だと思われる。

医療機能評価機構の患者安全推進協議会は2009年からCVCを教える中堅医師を育てる研修会を始めている。単にエコーガイド下穿刺を学ぶのではなく、シミュレーターのセッティング、警鐘的事例の講義、安全管理体制のワークショップ、参加者同士によるエコーを使った血管の解剖と生理の学習、など多岐にわたる。CVCの安全確保には人を育てる研修会が重要ではないかと考える。

\*ひとことアドバイスは、[公開ページ/トップページ/メニュー](#) → [「相談室」](#) → 「ひとことアドバイス」からご覧ください。

## フォーラム・セミナー等のご報告

平成22年度医療安全管理シンポジウム(西部地区)が開催されました

### 「患者・市民の医療参加」の必要性を多様な事例で実感

平成22年10月13日(水)、社団法人静岡県病院協会主催の平成22年度医療安全管理シンポジウム(西部地区)を浜松市地域情報センターにて開催いたしました。今回のテーマは「患者・市民の医療参加」でした。

西部地区の幹事病院として遠州病院の水上院長より「患者と医療者のお互いの信頼関係を築くことが重要」との挨拶に続き、座長を務めた遠州病院の稲本副院長は「医療事故で年間1万人以上も死亡しているという事実があり、医療人として患者も参加する医療を進めることによって少しでも医療事故を減らしていきたい」と話されました。

基調講演は「肺塞栓症・深部静脈血栓症友の会」の江原幸一氏を招き、「患者・家族の医療参加」と題してお話いただきました。江原氏は奥さんを術後の肺塞栓症で亡くした体験から、その死を無駄にしないよう肺塞栓症予防を訴える活動を始められたとのことでした。主治医を含め看護師が一生懸命奥さんの治療にあたる姿を見ていた江原氏が、深い悲しみの中で考えたことは、「医療は患者と医療者が敵対するものではない、同じ方向を向いて協力しながらできる医療を目指そう」ということでした。医療事故が起きるとすぐに訴訟に発展する昨今、医療者の真剣な姿勢と患者さん側の理解のもとに相互の信頼関係が構築されることを実感させられました。





シンポジウムでは4つの発表が行われました。

1つ目は、浜松赤十字病院副看護部長の櫻井恵子氏による【「できるところから」の地域住民のカー病院ボランティア】で、病院敷地内の花壇整備、入院患者用の帽子・ポシエット(小物入れ)の作成等ボランティアによる積極的な活動が紹介されました。ボランティアの目線から職場改善活動の提案もあり、職員からのボランティアに対する感謝の声も最近増えているとのことでした。

2つ目は、掛川市立総合病院看護師長の山田貴江氏による【安心・安全な医療を市民と共に一自ら名乗ることの必要性の理解に向けて】で、掛川市のホームページ掲載やキャラクターを使ったポスター掲示等による啓発活動を行った事例の発表となりました。患者が自ら名前を名乗れるように職員側から誘導するタイミングを工夫する必要があると訴えておりました。

3つ目は、浜松赤十字病院図書室司書の飯田育子氏による【浜松赤十字病院の患者図書室活動】で、患者さん及び家族の医療への理解を深め医療スタッフとのコミュニケーションに役立てたり、ストレスを抱えている患者さんの療養環境を快適にするよう努力しているとの報告がありました。開設当初の2006年は年間299名・142冊だった利用が、今では年間5737名・1087冊までになり、患者図書室設置の必要性を物語る発表でした。

4つ目は、JA静岡厚生連遠州病院(幹事病院)の病院長である水上泰延氏による【ひまわり会(人工肛門・人工膀胱の会)の患者さんとともに】で、当初病院主導で始まったが会員主導の患者会になり、同じ悩みを抱える患者に対し会員が患者の不安を取り除くための相談を実施したりしているとの活動報告がありました。ひまわり会の活動を通して、患者と医療者との親睦が深まり、治療におけるメンタルケアの手助けとなっているということでした。

全体討論は会場から活発な質疑応答となり、今回のテーマである「患者・市民の医療参加」の必要性を痛感させられました。夕方18時から2時間30分にわたるシンポジウムは盛会のうちに終了となりました。  
(報告者:JA静岡厚生連遠州病院 事務次長 水野秀雄)

\*これまでのフォーラム・セミナー等の報告は、[公開ページ/トップページ/メニュー](#) → [「フォーラム・セミナーの報告」](#) からご覧ください。

## フォーラム・セミナー等のご報告

### 諏訪中央病院(長野県)で応援コンサートが開催されました

2010年10月23日(土) ジュスカ・グランパール/ホスピタルコンサート・レポート

## 共同行動の輪を広げながら、 患者さんや医療者を癒すお手伝い

組合立諏訪中央病院 医療安全管理部  
専任セーフティマネジャー 名取 通夫

昨年5月に東京で医療安全全国共同行動「いのちをまもるパートナーズ」医療安全全国フォーラムが開催されました。午後の全体セッションでは、「医療者への応援メッセージと音楽の贈り物」と題して、ジュスカ・グランパールによる生演奏が披露されました。ギターとバイオリンによるアンサンブルで、鳥肌が立つほど感動したのを覚えています。それから1年後、第2回病院祭とタイアップすることで、医療安全全国共同行動がバックアップするジュスカ・グランパールによる応援コンサート開催が実現しました。

院内でのこうした応援コンサートの開催は、医療安全全国共同行動のことを患者さんや市民の方々に知っていただける大変よいチャンスです。当日は地域の人や入院患者さんとその家族、それから職員の150名ほどが会場に集まりました。

コンサートに先立ち、医療安全管理部の高木宏明部長より、医療安全をめぐる社会状況と共同行動の趣旨や活動内容、当院でのさまざまな取り組みについての説明がありました。参加者一人ひとりに

共同行動のリーフレットや、フルネーム確認、肺塞栓症予防のパンフレットなどが配られ、その場で熱心に目を通す姿が見られました。

そしていよいよお待ちかねのコンサート開始です。コンサートの出だしは馴染みのある「第三の男」でした。コミカルな動作と一緒に演奏が始まり、冒頭から聴衆の心を驚つかみにしました。流石プロです。その後も、曲と曲の間のトークも素敵で、ぐんぐんとコンサートに引き込まれ、「コーヒールンバ」や「愛の賛歌」など、年配の方にも楽しめる名曲が次から次へと惜しげもなく披露されました。特に最後の曲「Smile Smile」は、略して「スマ・スマ」と紹介されていましたが、会場全員で手をたたきながら大きな声で歌いました。タイトル通りみんな笑顔で楽しみました。そして気がつけば、とくに予定の1時間を過ぎていました。

会場では、車イスに乗った片麻痺の患者さんが一生懸命手をたたいていたのが忘れられません。また、小さな子どもも体でリズムを取りながら聴いているのも印象的でした。

普段は患者さんと医療者という立場で接している関係も、この時ばかりはみんなで一緒になってステージを盛り上げました。こうして会場が音楽でいっぱいになり、音楽を通してひとつになり、楽しいひとときを過ごすことができました。職員もほんのわずかな時間ですが、「ホッ」とできたことと思います。



ジュスカ・グランパールとそのスタッフの方々には、たいへん感謝しています。素敵な贈り物をどうもありがとうございました。とても良い一日でした。そして今回も思い出に残る一日でした。

最後に、ひとことアドバイス。他の施設でもぜひとも共同行動のバックアップで、応援コンサートを開催してみたいかと思いますが、コンサート単独で開催するのが負担であれば、何か病院の行事などとタイアップするのがお勧めです。開催することで、いろいろと良い反応が出てくることは間違いありません。ちょっとだけ時間を使えば、あなたの施設でも必ず実現します。医療安全全国共同行動の取り組みをアピールすると共に、このビッグチャンスを生かして患者さんや職員を癒すお手伝いをしてみませんか。もちろん自分も癒されてください。

### 職員の感想より

素敵な演奏、ありがとうございました。生の音、いいですね〜♪ まさに“生きてる!”って感じでした。今でも、心の底から温かさが湧き上がってくるような気がします。

コンサートのプチエピソードをひとつ。

いつもは車椅子に長く座ってられない方です。演奏の最初から、ジッと聞き入られていました。最後の曲が済んだとき、「お部屋に帰りましょうか？」と、声をかけると、『ほらっ! アンコールがあるわよ♪』と、瞳を輝かせておられました。コンサートから1週間になりますけれど、笑顔で話題にされています。ジュスカのお二人、スタッフの方をはじめ病院祭運営スタッフの皆に本当に感謝です!

\*これまでの応援コンサートについては、[公開ページ/トップページ/メニュー](#) → [「広報資料・参考資料/応援コンサート」](#)からご覧ください。

### フォーラム・セミナー等のスケジュール

- 11月1日(月)~30日(火) ▶ 日本看護協会 医療安全推進週間 企画展
- 11月6日(土) ▶ 第6回 医療安全大会  
ーチームでとりくむエラー対策
- 11月8日(月) ▶ 静岡「医療安全管理シンポジウム」(中部地区)
- 11月16日(火) ▶ 静岡「医療安全管理シンポジウム」(東部地区)
- 11月26日(金)・27日(土) ▶ 全国フォーラム
- 11月27日(土)・28日(日) ▶ 第5回医療の質・安全学会学術集会
- 2011年3月12日(土) ▶ 静岡「医療安全管理シンポジウム」(大阪地区)

★ウェブマガジンWhat's on, Kyodokodoは第1・第3金曜日に配信します  
院内にて掲示・回覧・配布等、ご活用ください

---

医療安全全国共同行動 “いのちをまもるパートナーズ”  
ウェブマガジン What's on, Kyodokodo 編集室  
E-mail: secretariat@kyodokodo.jp URL: <http://kyodokodo.jp/>